

平成19年度市の仕事

特集 安心して暮らせる まちづくり

市の財政は、昨年作成した中期財政見通しで平成22年度までに、約28億円もの赤字が見込まれました。また、今後も高齢者の増加により、新たな施策や負担も増加すると見込まれています。

市はこうした厳しい状況の中、市民の皆さんがいつまでも安心して暮らすことができるよう、さまざまな取り組みを行っています。

今月号では、市が平成19年度に取り組んでいる事業などについてお知らせします。

振圏が連携を強めて、将来一つのまちを目指すことについて6人の首長の認識が一致しました。

『第2回西胆振地域連携フォーラム』は、昨年11月に登別市民会館で行われ、合併は目的ではなく将来のまちづくりの選択肢の一つであることの認識と西胆振圏のビジョン作りの必要性が確認されました。

今後は、地域の皆さんに西胆振のまちづくりはどうあるべきかを論議するための資料を提供し、議論をしていただくことにしました。

市民自治を目指して

登別市まちづくり基本条例に基づく登別市市民自治推進委員会が、平成18年10月12日に設置されました。

この市民自治推進委員会には、全

体会議、運営委員会、6つの部会が設置され、1月末日現在で79人が登録しています。

今年度の主な事業は、市で行っている事務・事業の評価と福祉のまちづくり条例、景観条例、緑の条例の策定などに取り組み、福祉のまちづくり条例では、その骨子を市に提言しました。

市民自治推進委員会では、もっと多くの市民の皆さんに市民自治を考えていただくため、3月2日(日)に市民会館で、北海学園大学法学部の教授を講師に招き、市民自治フォーラムを開催することとしています。

のぼりべつ文化交流館

『カント・シララ』がオープン

のぼりべつ文化交流館は、旧登別

西胆振地域の将来を考える

少子高齢社会を迎え人口減少期に入り、さらに地元では雇用の場が少ないことなどから、若い人たちの都会への流出が続いています。

人口の減少は、地域内の生産力や購買力の低下を招き、さらには雇用の場や税収の減少などの悪循環を招きます。

西胆振地域には、さまざまな産業と優れた技術や知識、文化を持つ6つのまちがあります。この6つのまちによる効率的な行政運営と地域連携の在り方を論議する『第1回西胆振地域連携フォーラム』が、平成18年11月に西胆振広域圏振興協議会の主催により室蘭市市民会館で行われました。このフォーラムでは、西胆



▲第2回目の西胆振地域連携フォーラム